

宮城野カルタ 解説

平成二十九年度
宮城野区中央市民センター
市民企画員制作



「宮城野カルタ」によせる言の葉

平成元年四月一日に政令指定都市へ移行した仙台市は、本年で区制施行三十周年を迎えます。

当時（旧泉区域がそのまま区域となった泉区を除き）、区名は広く公募され、仙台駅東側から太平洋までの市北東部に分割されたこの地域は、「港（区）」「東（区）」「萩（区）」等の有力候補名を退け、最終的に歌枕にも詠まれた「宮城野（区）」と命名されました。

そして区制施行後間もなく、高度経済成長と急速な都市化という時代の流れの中で、失われていく風土、暮らし、記憶等をその地域の人々から学び、残していこうという地元学がこの地に誕生したのです。（宮城野区が「地元学」発祥の地と言われている所以です。）

そのような「宮城野」の固有の風土、史跡、景勝地等をテーマに読み句が厳選された郷土カルタが、多くの皆様に制作へ関わっていただき、宮城野区誕生三十年目の節目を迎える同時期に完成いたしました。

地元学発祥の地「宮城野」に相応しいカルタとなりますよう、楽しく遊びながらも登場する史跡、名所、自然、文化、伝承等についてさらに探求、あるいは再発見していただくことに繋がれば幸いです。

文末になりましたが宮城野カルタ制作に際しまして、市民企画員の方々に深く敬意を払いますとともに、ご協力をいただきましたすべての皆様にあらためて感謝申し上げます。

平成三十年三月

宮城野区中央市民センター

センター長 松島 桂一

二、「宮城野カルタ」趣旨

「宮城野カルタ」市民企画員

代表 佐藤 千賀子

かねがね私は他区には区を代表する「カルタ」があるのに、宮城野区にはないことを残念に思っていました。「みやぎの」は古きより歌枕に読まれる素晴らしい地域です。郷土の大切な場所・伝説を残しておきたい、残さなければならぬという思いで私はいっぱいでした。これが宮城野カルタ制作の原動力となりました。

もう一つ、宮城野カルタを形にした大きな力があります。それは多世代にわたる方々の参加です。このようなカルタを作るのはたいてい私たち企画員のような歴史好きの高齢者たちですが（苦笑）、このカルタの読み札は市民センターに職場体験に来た中学生、インターンや実習の大学生からも集めました。もちろん市民センター利用者にも、ついには区長にまで一作、ご提

供いただきました。絵札はすべて宮城野高校美術科の有志の生徒の方々の筆によるものです。多世代から参加を募ることで、不揃いながらも参加者の個性がパツクワークとなって、一つの世界を創りあげています。

こんな素敵な、面白いかるたで、子どもから大人までが夢中になって遊ぶ。そして学ぶ。私はそんな「宮城野カルタ大会」が開催されることに、今は心を躍らせております。

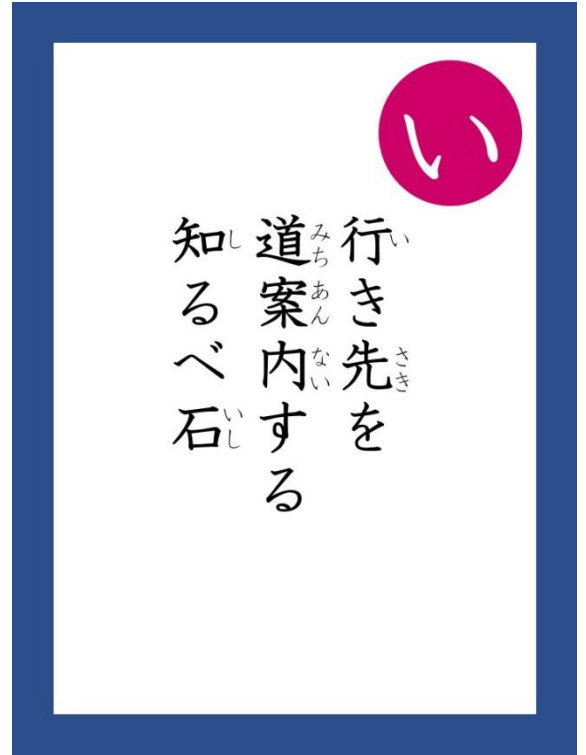
追記 入稿段階に至って、朗報が飛び込んで参りました。カルタの絵札と読み札が、仙台七夕に飾り付けられた短冊の再生紙によって作られることとなりました。さらに大きく仙台市民の参加が叶ったのではないかと、という思いでおります。趣旨にご理解をいただき格別のご助力をいただきました孔栄社様、鳴海屋の皆様がこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。

三・各札の解説

「宮城野カルタ」は「いろは」から始まり、「ん」で終わる「ゑ・ゐ」を含む四十八枚です。その中に宮城野区の名物や名所が取り上げられています。

昔、文字を習う時は、最初に「いろは仮名」を習いました。そこから「物事の始まり」を「いろは」と言い表すようになりました。

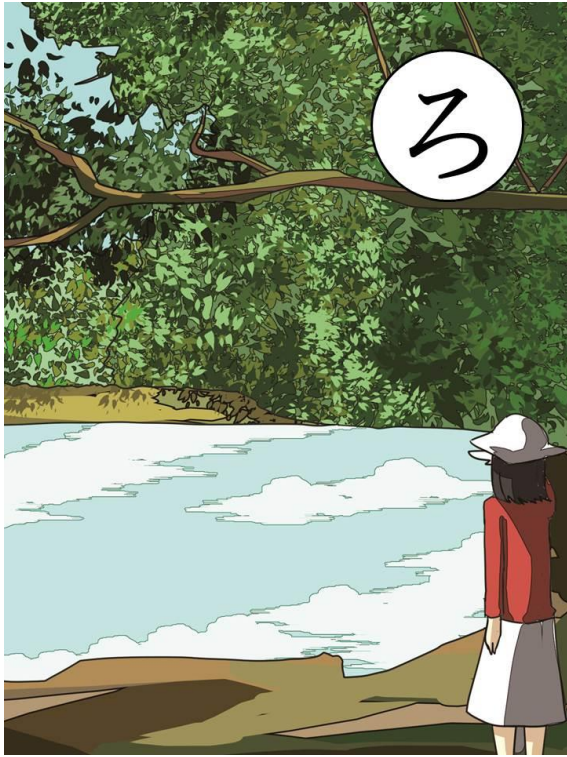
同じ意味合いで、このカルタも宮城野区を知る手始め（スタート）に役立つよう願っています。



道 標 石(原町商店街内)

原町苦竹の宿場町通り東端，塩釜街道と八幡街道の十字路東南角にあり，嘉永6年(1853)に建立。安山岩の円頂方式で根石が露出。石には「西御城下二十六丁」「南長町宮城野いてふ道嘉永六年七月日」「北塩かま松島六里十五」と刻まれている。

今は人通りの少ない商店街の中に屹立しているが，往時は多くの人たちが行き交う姿を見つめ，その行く先を示していたのだろう。



ひょうたん沼

団地開発の過程で出現し，以前から在った北側の沼と共に，その形状から「ひょうたん沼」と呼ばれ，団地住民の憩いの場になっている。現在では人工地形だった面影は薄れ，越冬・棲息する野鳥が多く居る。

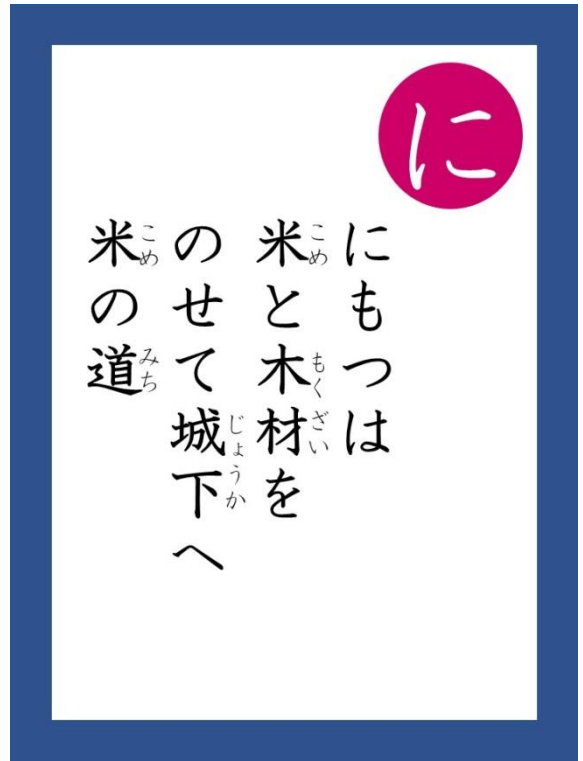
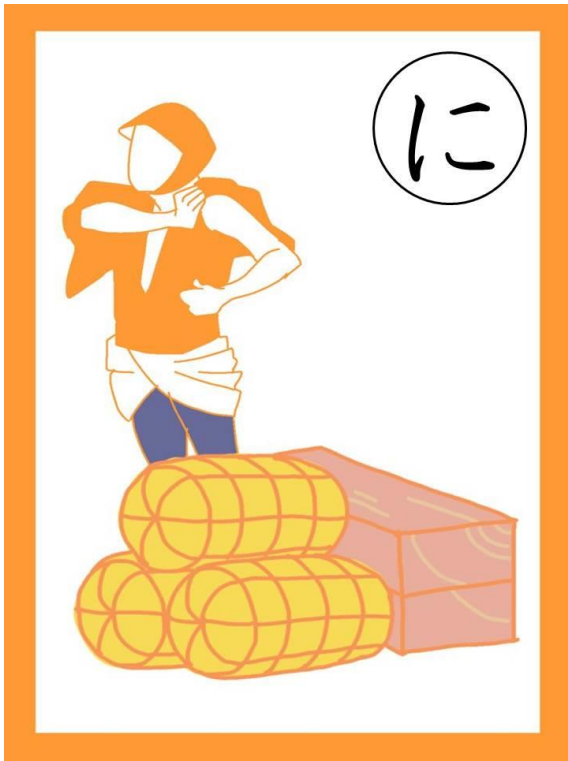
鶴ヶ谷団地が造成されて半世紀。昔は若い家族やカップルたちもこの水際を散歩して，穏やかな時間を過ごしていたのかもしれない。



原町小学校の柿の木

以前，校庭に柿の木があって児童会名にもなっている。台風で折れてしまい現在はないが，この柿の木があった往時には，老人会の人々と子どもたちとの交流授業で干し柿作りも行われていた。

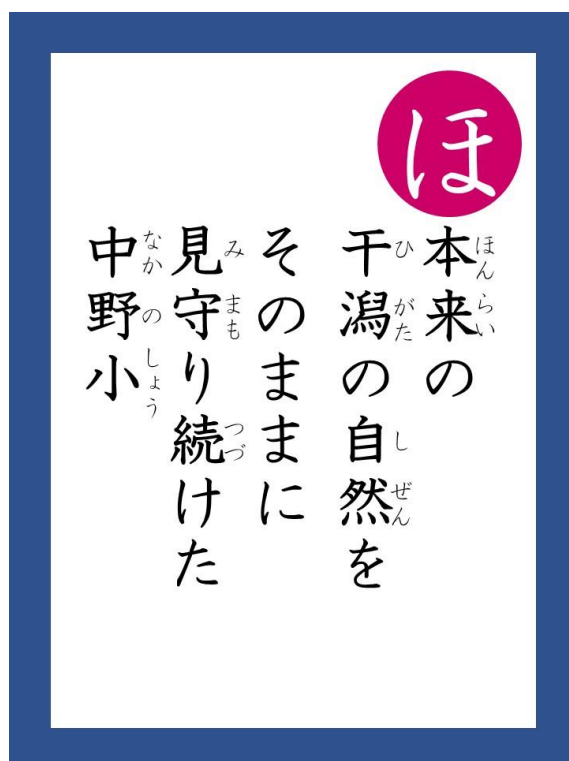
この柿の木にちなんで，原小のスクールカラーは「柿色」。校内の合唱団も「柿の木合唱団」と呼ばれている。地域に愛され，親しまれているシンボルだ。



貞山堀と米の道，舟入堀

政宗公が命じ忠宗公と続き，年貢米・材木等を積んだ船が盛んに行き交っていた時代の貴重な運河。全長49kmの運河は後に貞山運河と呼ばれる。米は蒲生～鶴巻～苦竹と水路で運ばれ，その後陸路では牛車を使い，原町米倉庫に収められた。

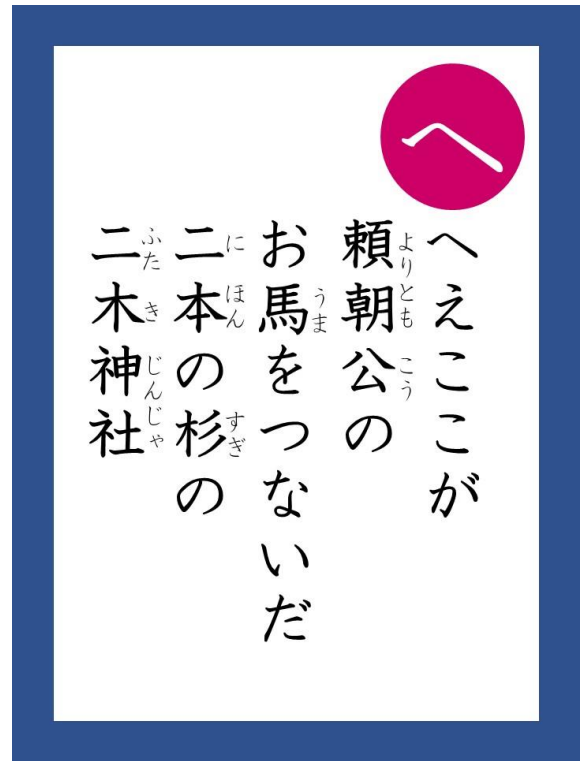
今でも散策すると藩政時代から明治までに至る遠大な土木事業をうかがい知ることができる。



中野小学校跡地

明治6年開校。仙台港建設に伴い昭和46年西原に校舎新築移転。蒲生干潟を学習素材として、全校をあげて環境教育に取り組み、環境大臣賞や環境庁長官賞を受賞。平成23年東日本大震災の被災後、災害危険地域となり平成28年3月31日閉校した。

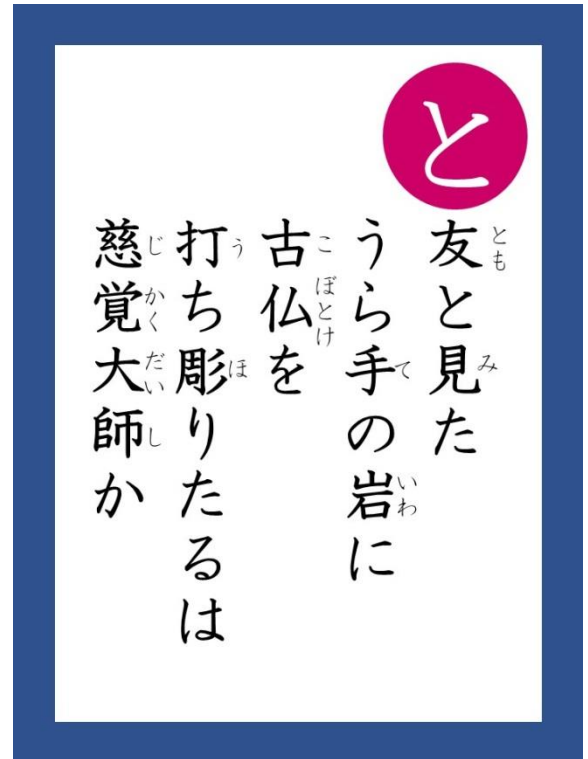
震災から7年、現在はモニュメントが建てられている。移ろいやすい人の心だが、この地で自然を通して学ぶ児童たちの姿が、全国的にも高く評価されていたことも忘れてはならない。



二木神社

源頼朝が平泉遠征の途上、境内の2本の巨木に馬を繫(つな)いだ事に由り「二木(ふたき)」と呼称されるようになったらしい。平成3年に改築された本殿は「唯一神明(ゆいいつしんめい)造り」の建築様式であるという。

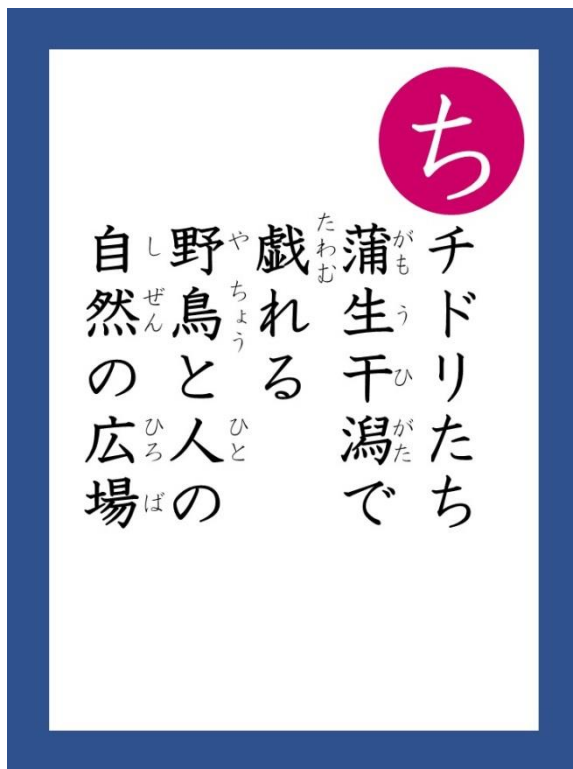
最近、鎌倉幕府の成立は1185年とされているが、日本史上の有名人物である頼朝に関わる謂われがこの地に残っていることを知る人たちはどれほどいるだろうか。



東光寺の岩窟仏

慈覚大師の開基とも言われる国府多賀城の靈廟。境内より発掘された数基の板碑を含め、数多くの板碑群が在る(最古は1278年)。西方の4つの岩窟の壁面には半肉彫りの仏像がある。

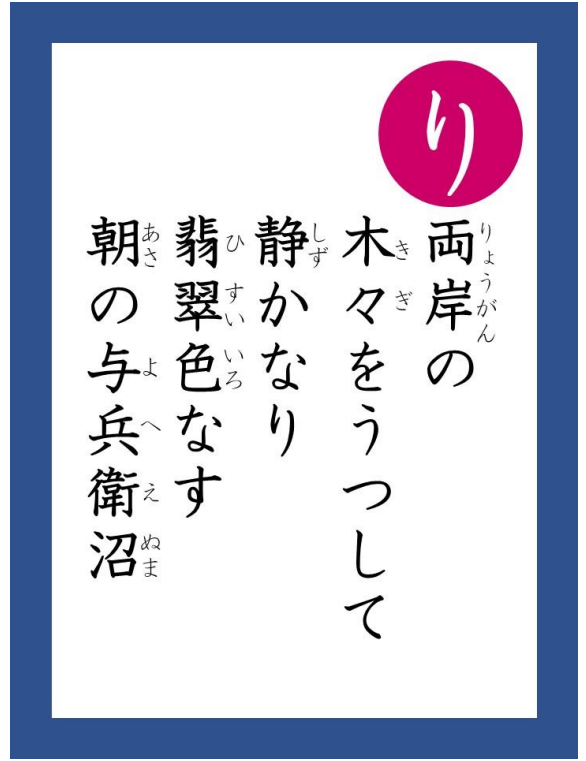
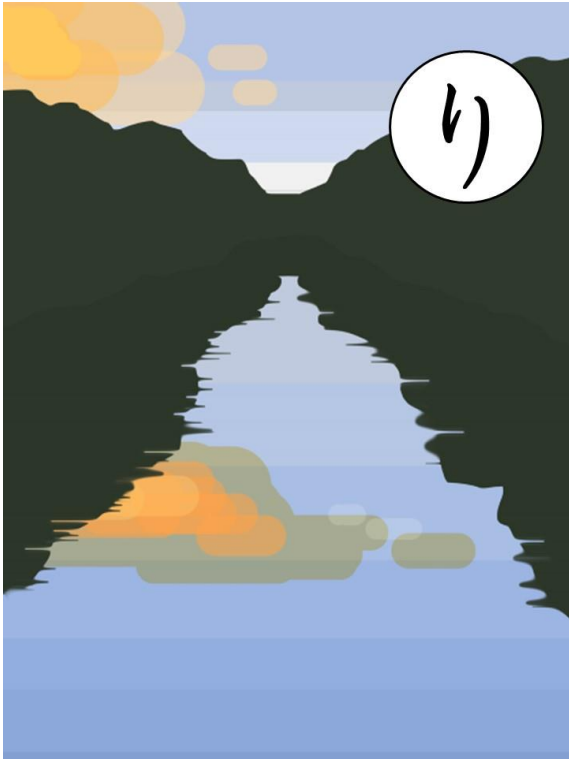
七北田川を見晴らすように建つ東光寺。その裏手の山に仏様はいらっしゃる。この寺に詣でた人々を長年見てきた仏様はこれからも私たちを見守ってくれるだろう。ちなみに、この読み札は折句（おりく）で表現されている。



蒲 生 干 潟

砂浜，干潟，潟湖，河口，塩性湿地，クロマツ海岸林といった多様な自然要素が狭い地域の中に集積している。シベリアと東南アジアからの渡来するシギ，チドリ，コアジサシ，コクガンの越冬地として貴重。

震災直後は津波による生態系の破壊が懸念されたが，徐々に回復してきている。多様な鳥たちが集まる場所であるが，潮干狩りやサーフィンといったレジャーでの利用も多い。



与 兵 衛 沼

米経済が本格化する江戸時代に入ると全国的に新田開発が推進され、仙台領でも新田開発が活発に行われた。伊達家の家臣で鈴木与兵衛が私財を投じ、湧水(わきみず)・流水を利用した堤を造成。4代藩主綱村公は「与兵衛沼」と命名する。

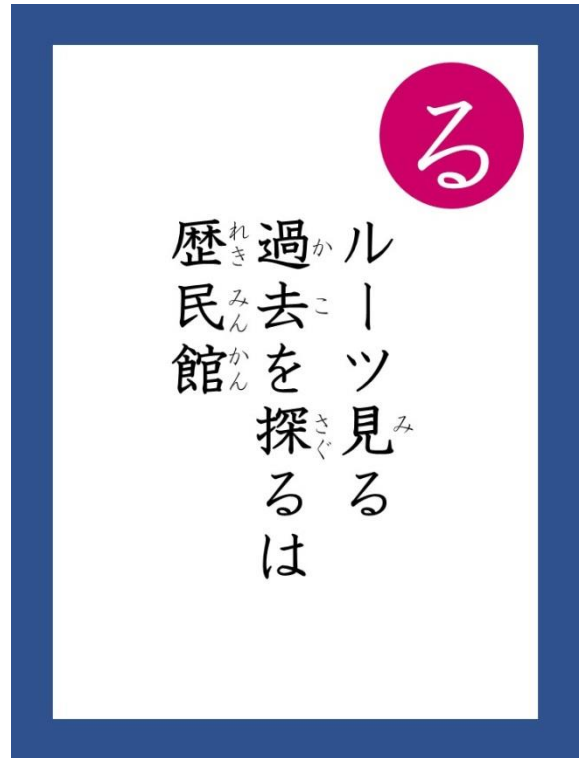
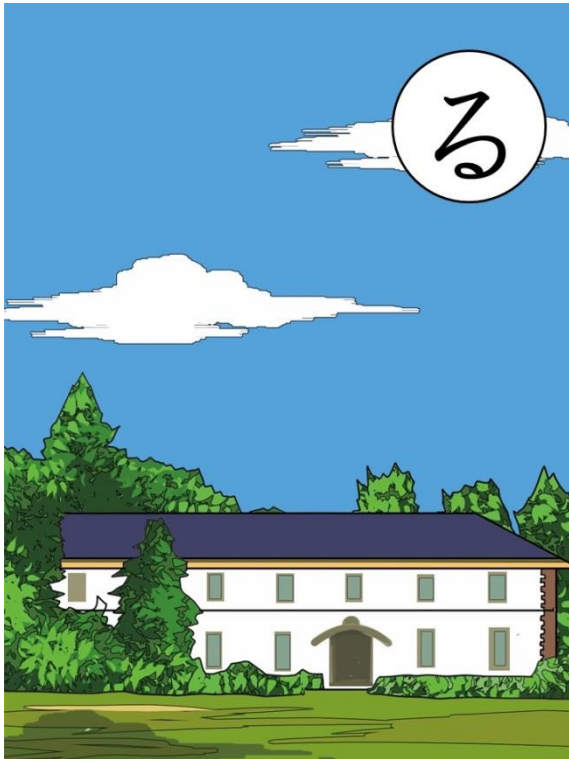
夏の早い朝に散歩をすると、仙台にいるとは思えない静けさに包まれる。翡翠(ひすい)色とは日本の伝統色名の一つ。青緑から黄緑にわたる幅広い緑色を指す。



鈴 虫 壇

仙台市の市虫は鈴虫である。宮城野原は古来「萩」と並び鈴虫の名所だった。宮城野の鈴虫は「ななゆすり」といわれ7回続けて鳴くのが特長。そして姫様たちは時に野に出て鈴虫の音色を愛でたという。

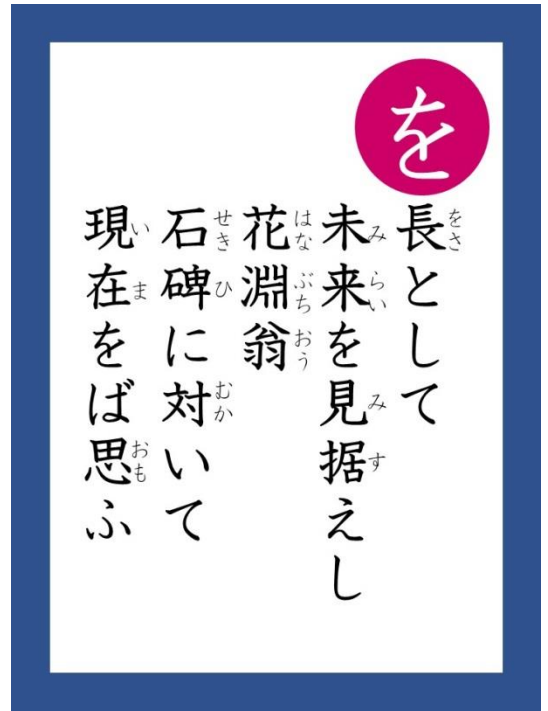
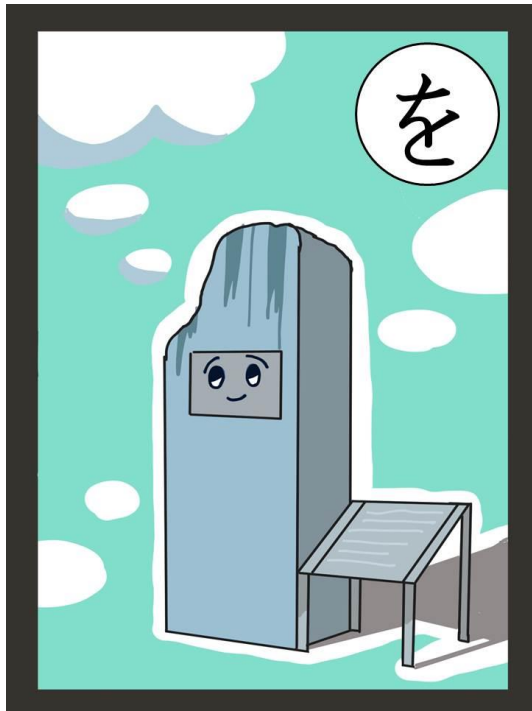
おそらく宮城野原は一面の草原で、夢中になってかくれんぼや鬼ごっこをする子どもたちの姿もあったはず。地面に伏せた時の鈴虫との出会いも日常的なものだったに違いない。



榴 岡(歴史民俗資料館や 佐藤忠良の彫刻)

明治の軍用地が数々の利用の変遷の後，市の公園化に伴い，残存の兵舎1棟を移転。明治38年頃の外観に復元のうえ，1979年に歴史民俗資料館として開館した。利用者は児童から高齢者まで幅広い。仙台市有形文化財。

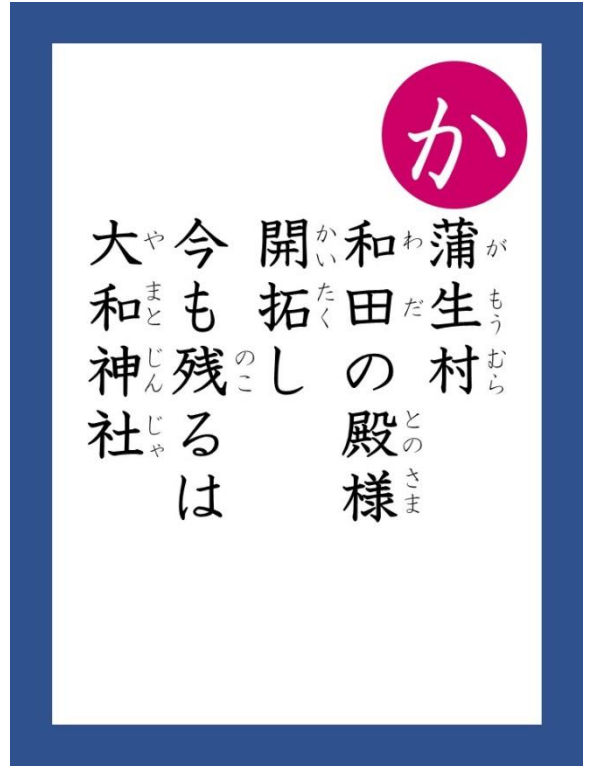
旧歩兵第四連隊の兵舎があった地に，世界平和を目指すユネスコ本部（パリ）の方角を見つめる像が立つ。像の制作者は仙台市出身の佐藤忠良氏。



花 淵 源 吉 翁

高砂村長在任中の明治34(1901)年に、中野の原野を開拓し、蒲生に養魚場を設け、退任後も利水に尽力したという。高砂駅の誘致には自分の土地を提供するなど、常に地域の人々の暮らしの便を図った功績は大きい。

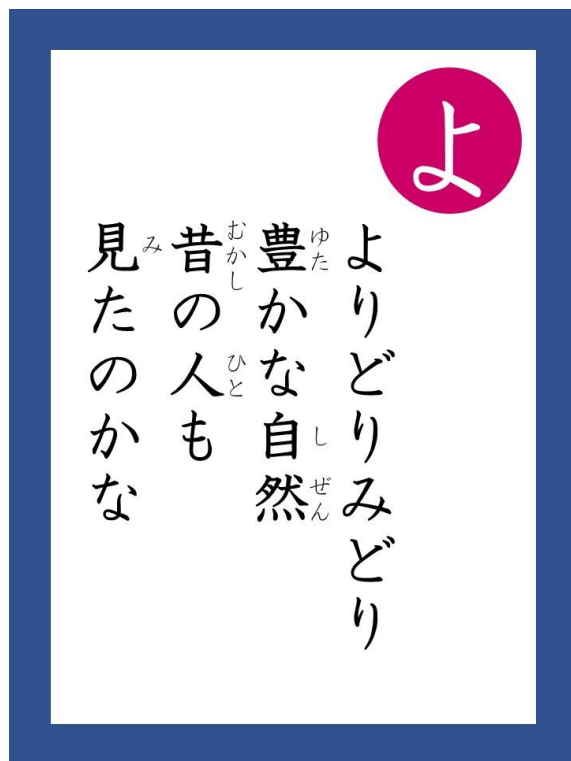
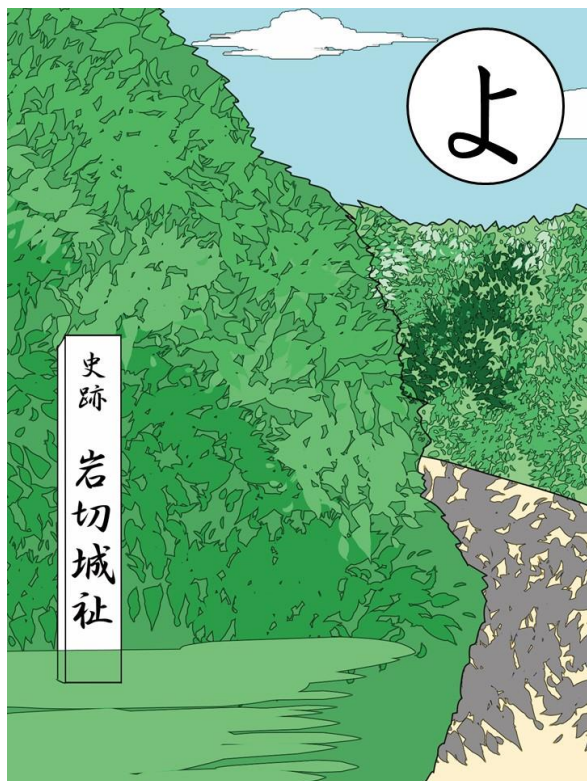
これらの事績を記念してJR仙石線陸前高砂駅のロータリー東側に大きな顕彰碑が建てられている。震災から立ち上がり、「まち」を自らの力で盛り上げようとしていく人々を応援しているに違いない。



大 和 神 社

寛文13年(1673)和田織部房長は舟入堀の工事完成を期に多賀城紅葉山の館より家従30人と共に蒲生に移住。館内に氏神として京都伏見稻荷神社の分霊を勧請し祀った。和田氏は大和(奈良県)出身なので大和神社と称した。

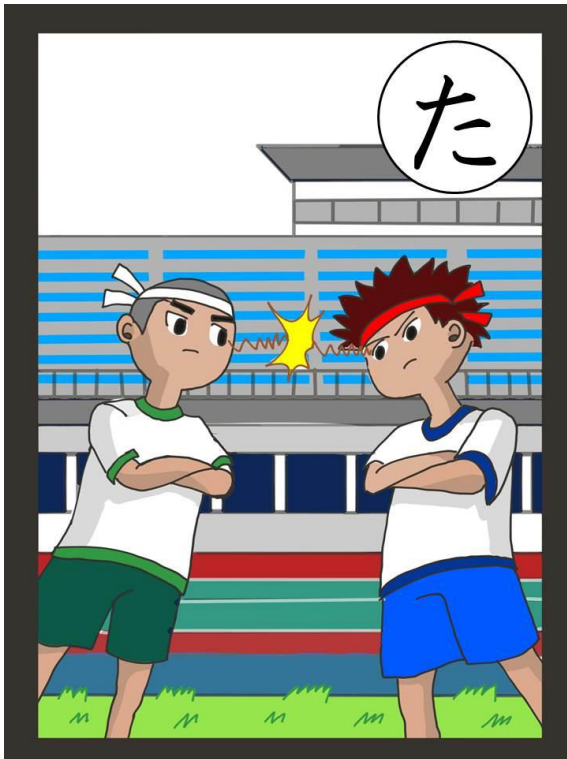
震災による津波で大きな被害を受けたこの地を今は大きなトラックが行き交っている。仙台港開港時を思わせる大きな変化の時を迎えている。



岩 切 城 址

高森山の尾根部位の山城で留守氏が預る。12世紀末から14世紀半ばの南北朝の合戦の歴史を経て、16世紀後半に廃城。建築物は現存しないが、天然の地形に加え、堀切・土塁・曲輪跡が認められ、公園化されている。

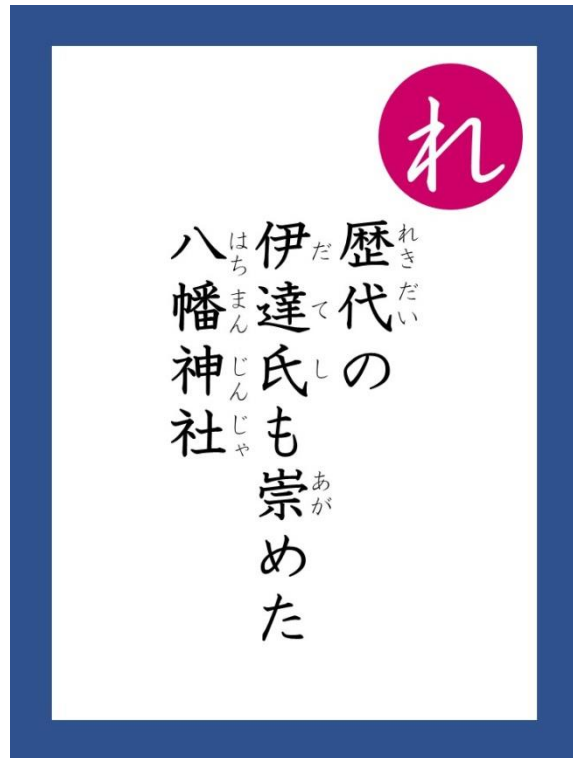
武士たちの盛衰の跡は草木が生い茂って見えないが、当時の城の仕組みを説明板で理解できるようになっている。



宮城野原運動公園

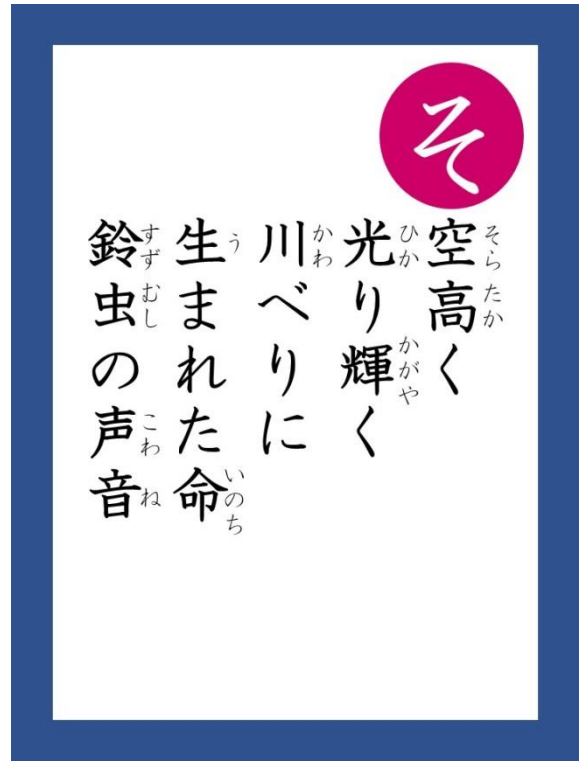
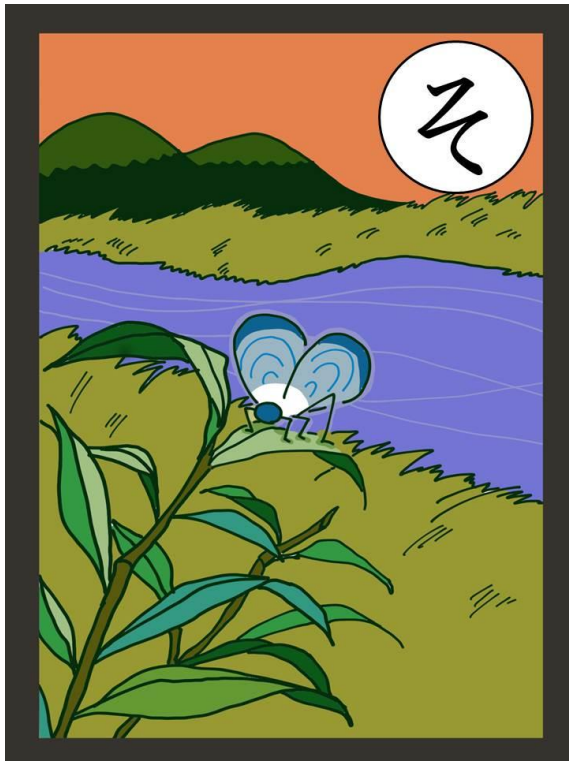
昭和25年5月当時東北一の野球場が完成，昭和27年10月には陸上施設等も完成。昭和31年秋に三段跳び世界記録が誕生した。平成16年に東北楽天イーグルスが新参入し野球場（現名称：楽天生命パーク宮城）を本拠地とした。

プロ野球の本拠地であると同時に，仙台市の小中学生の陸上競技のメッカとなっているグラウンド。1秒を競いあう中で生まれる強い絆は何物にも代えがたい。そんな青春のドラマがここで数多く生まれてきた。



宮城野八幡神社

延暦17年(798年)創建，当初は生巢原(いけすはら)八幡神社と称し仙台藩歴代藩主も篤く崇(あが)め，宮城野八幡とも呼んだ。この他，坂上田村麻呂や北畠顕家など歴史的に有名な人物も関わった社である。戦災と国鉄貨物用地建設のため，昭和27年現在地に社殿を新造。拝殿の右奥には相撲の土俵がある。

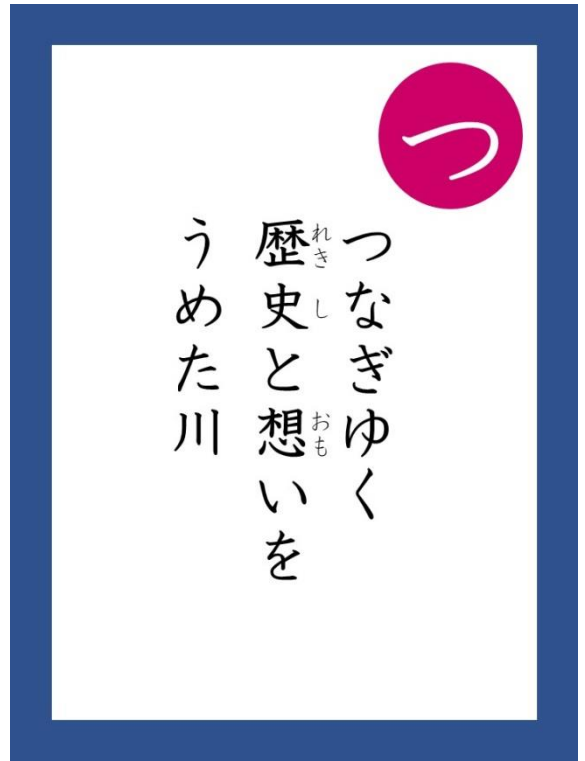


そら たか
 空 高 く
 ひか
 光 り 輝 く
 かがや
 川 べ り に
 かわ
 生 ま れ た 命
 う
 すず
 鈴 虫 の 声 音
 おむし
 こわ
 ね
 いのち

七北田川・冠川

源を泉ヶ岳(1172m)とし根白石～七北田～松森～岩切～福田町を流れ蒲生海岸に流れる延長45kmの二級河川。別名冠川とも呼ばれ、神がここに天降った神居川(かむいがわ)説や坂上田村麻呂(あるいは源頼朝)が今市橋から冠が飛ばされ流された説などに由来する。

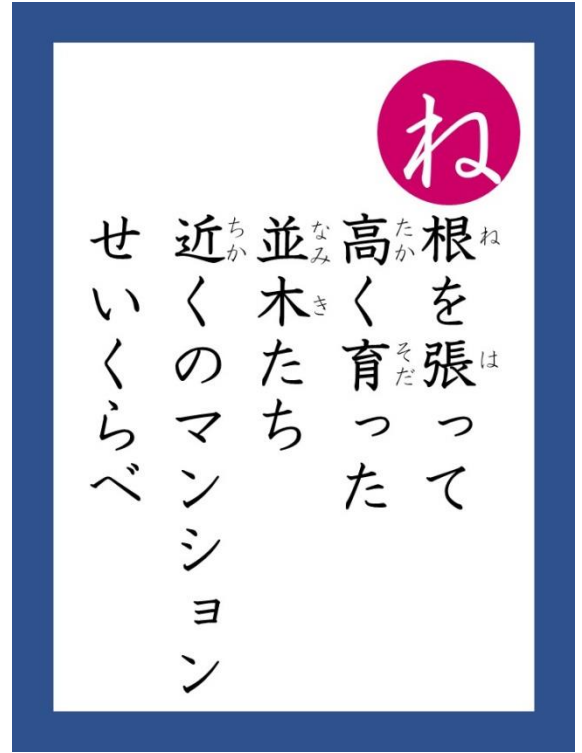
土手沿いには草木が茂っているが、仙台市の虫スズムシは昔、こういった場所にも生息し、耳を楽しませてくれていたのかもしれない。



梅田川

「うどう溜池」を水源として藤川，高野川（こうやがわ）と合流して福田町で七北田川に合流し海へ。全長約15km。過去には悪臭を放っていた時期もあったが，地元の方を中心とした美化の活動が実って，現在ではサケが遡上する姿も見られるようになった。散策ができる歩道もあり，川をめぐる人たちの思いを感じ取ることができる。

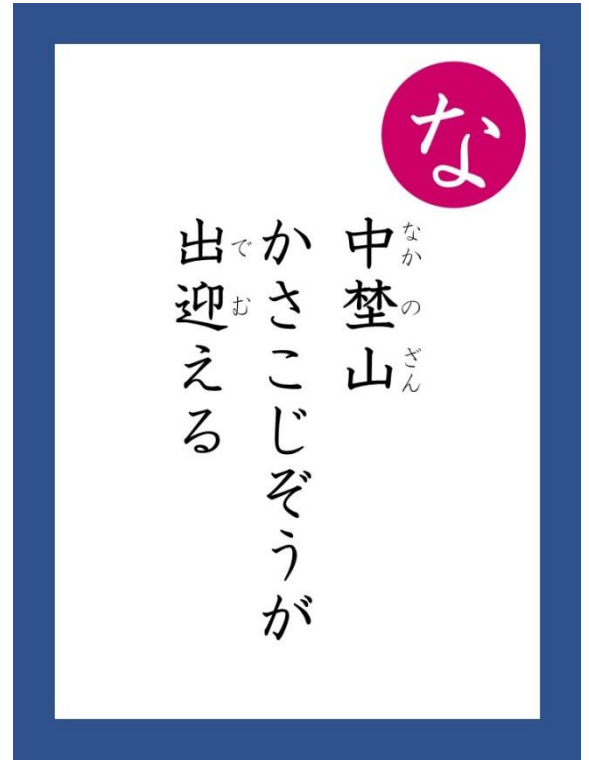
名前の由来として伝わる「田を埋めて作られた説」をモチーフに読み句を作った。



鶴ヶ谷の並木道

団地造成から半世紀，町並みに老朽化が認められる一方，メイン・ストリートの植栽は成熟期を迎え，街路樹としての景観に勝れている。ことに，三高前のイチョウ並木は泉ヶ岳を正面に望み，四季を通しての評判ものである。

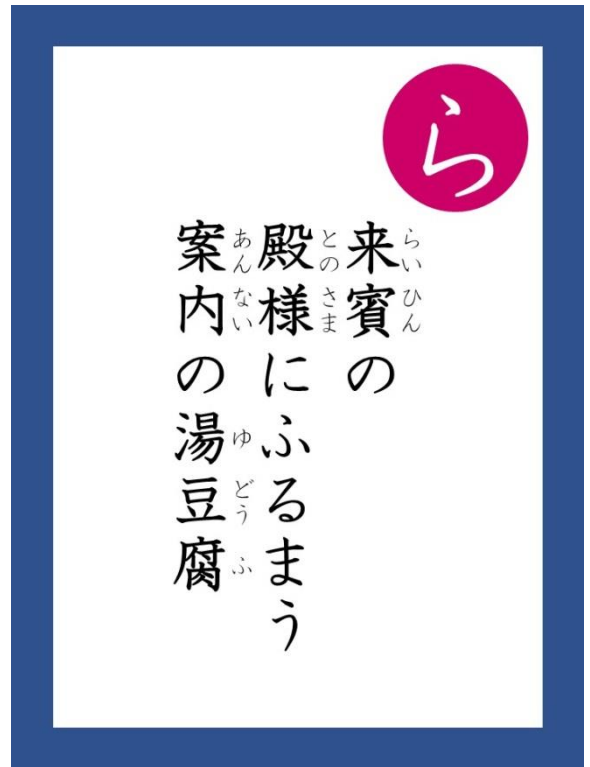
鶴ヶ谷団地内は地下ケーブルが埋設され，電柱がなく，眺望の良さを助けている。また木々も伸び伸びと成長している。



中埜山誓渡寺(かさこじぞう)

誓渡寺(せいとじ)は昭和45年頃まで寺跡に「松の大木の中の松山」があり山号の中埜の由来と考えられる。首のないお地蔵さんが境内にあったが、新たに昭和57年「中埜地蔵尊」を建立した。皮膚病(かさこ)に効くという噂から「かさこじぞう」と伝わる。

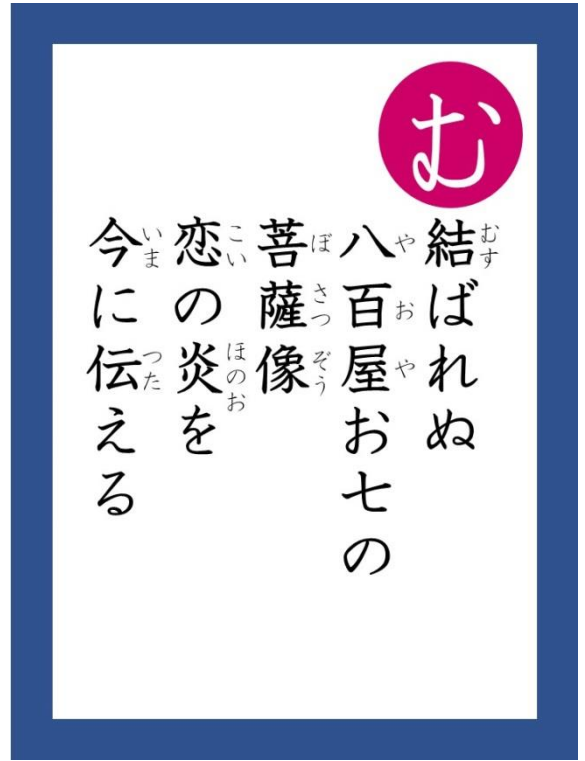
その昔、「地蔵さんの首を持って頼母子講(たのもしこう)のくじを引いたら当たった」という噂を聞いた男が、地蔵さんの首をもぎ取り、首を持ってくじを引いたが当たらず、その首を土沼田(どぶた)へ捨てて帰ってしまった。長い年月そのまま放置されてしまったという言い伝えもある。



案内茶屋

江戸時代，松原街道筋の案内にあった茶屋の一軒，中の茶屋（菅野屋）では湯豆腐がふるまわれていた。江戸の住人，富田伊之（これゆき）が安永6年に出した「奥州紀行」では，松原街道を塩釜へ向かう途中，「名物湯豆腐」の金看板が目に入り，「湯とうふ」と「雑煮餅」を食したとの記述がある。また，13代藩主伊達慶邦（よしくに）公の随筆「やくたい草」にも「名物の湯豆腐あり」と記されている。塩竈神社参詣の際，殿様や姫君たちが立ち寄り，何杯もおかわりをしたとされる。

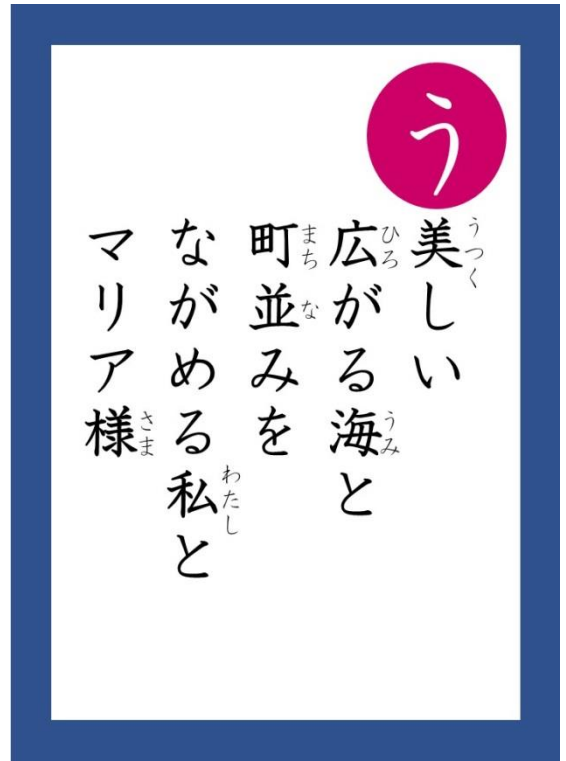
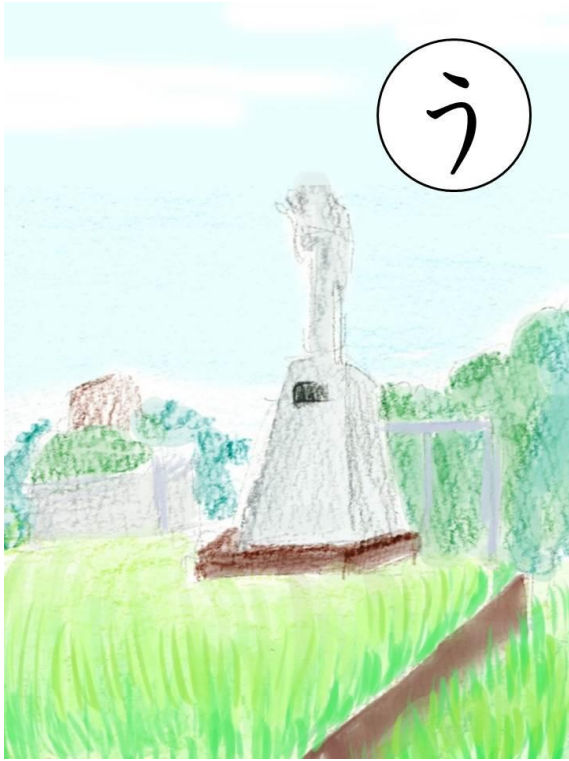
※東部市民センターの食育事業の一環で，細長く切ったこの「案内の湯豆腐」を再現している。



大蓮寺

枳江に在った仏光寺を移転，大蓮寺として再興。八百屋お七菩薩像の本殿安置は，恋人吉三が僧となって行脚の後に，この地に吊ったという伝説に由る。付近の古窯群は古墳～奈良～平安時代に稼働，東北最古の須恵器も産出した。

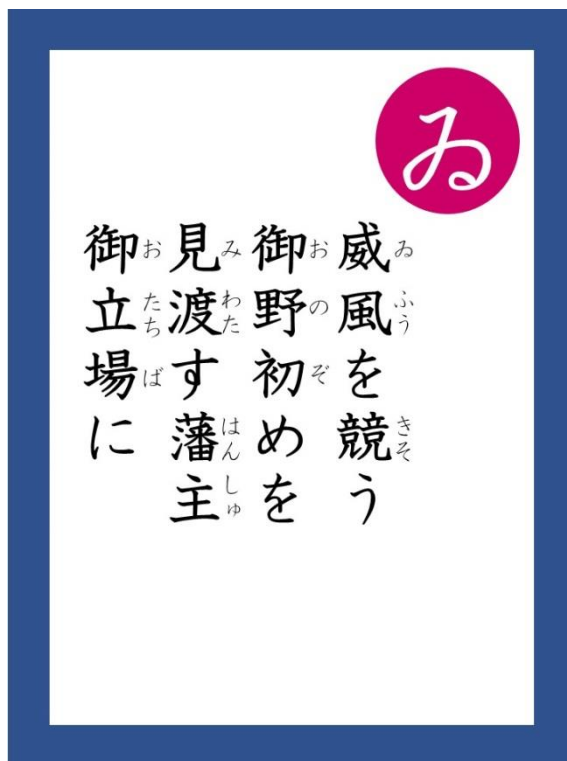
真偽はともかく，お七と吉三の若い二人の恋愛よりも，お七が大火に関わったことが大きく伝わっている。お七の菩薩像は色鮮やかになって，江戸時代の美しい彼女の姿をイメージさせるに違いない。



外人墓地

東仙台教会が運営する「カトリック鶴ヶ谷墓地」のこと。鶴ヶ谷団地東南角の丘地(『大須賀森』と呼ばれる)に位置し，幼児を抱いた聖母マリア像(希望の聖母像)が建っている。

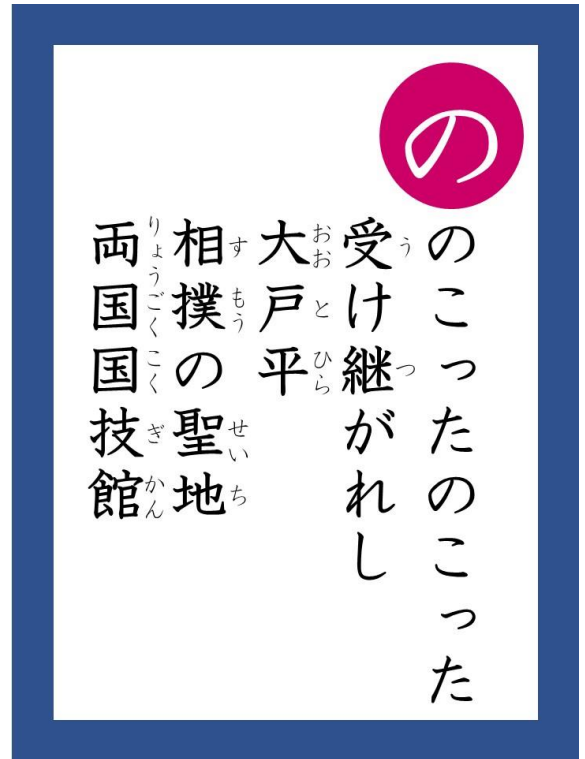
展望台もあり眺望がよく，太平洋から登る朝日が望める。その眺めの良さから，ここで新年のご来光を拝む人たちがいたことも聞き取り調査で知った。



御 立 場 (御野初め)

藩政時代，仙台藩主が在城時の正月三日に狩猟と「御野初(おのぞめ)」という儀式を兼ねた行事が行われ，藩主が家臣を閲兵するための本陣を置いたことから「御立場(おたちば)」と呼ばれた。

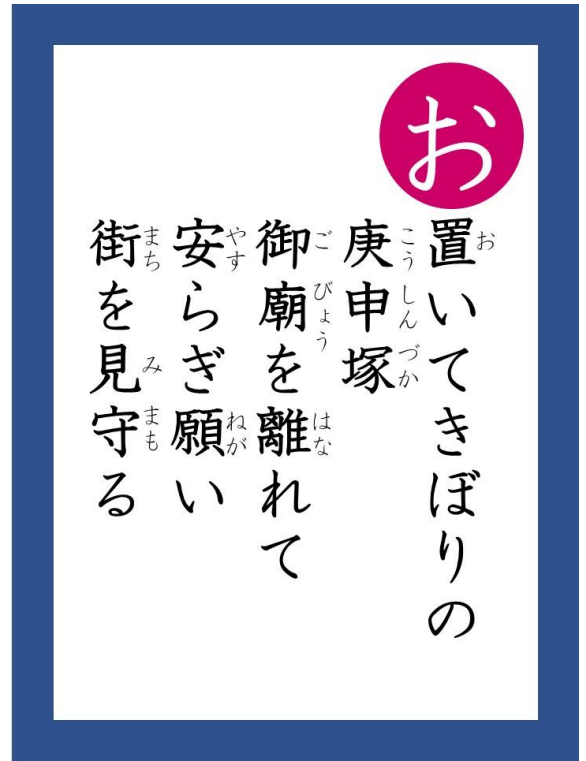
今では町内会もできて，多くの人が住まう住宅地となっている。戦国の世に精強を誇った伊達の軍勢が勢揃いする閲兵式は，さぞ壮観だっただろう。地形ファンの方は地形図を片手に現地を歩いて，政宗の気分を味わってはいかが。



大 戸 平(おおとひら)

明治時代の力士(1866～1916)宮城野区出身，本名太田広吉。尾車部屋に入門，明治26年大関。筋肉質の相撲巧者として活躍。優勝2回。同32年引退。年寄尾車を襲名した。同42年に開館した東京両国国技館の名付け親として知られる。

現在まで「国技館」の名は残り，館内は一番一番力の入った取り組みが，今日も行われている。

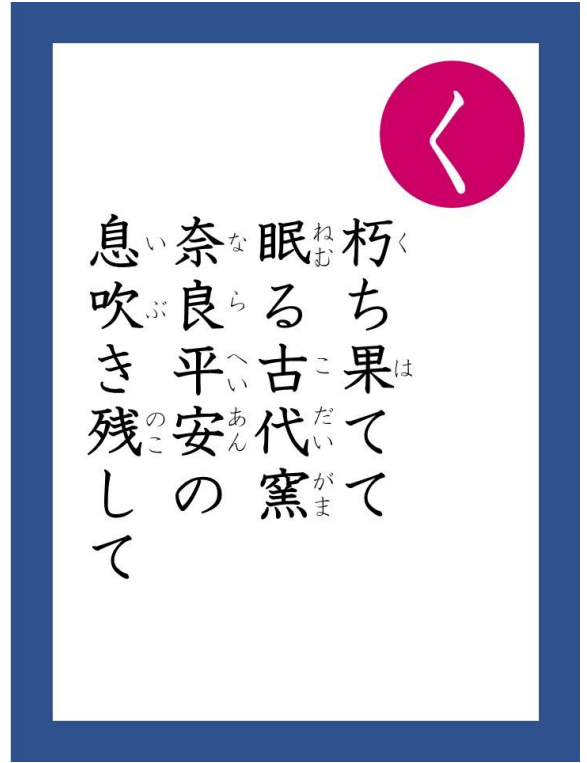
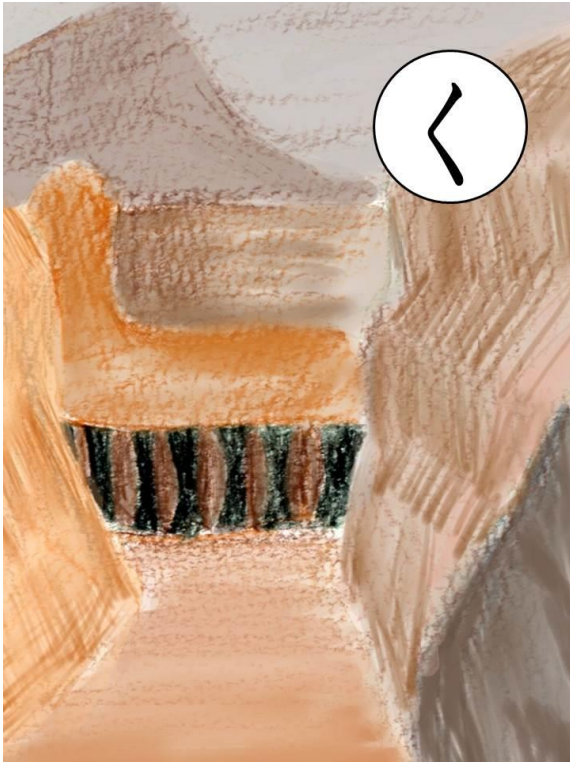


二の森の庚申塚

最も新しい伊達家墓所(明治2~18年造)で戦前までは「御廟(ごびょう)」と呼び、旧庚申前地区丘陵(現・高松3丁目東端)にあった。昭和35年に墓は移転、跡地に残された庚申塚が萬寿寺住職の計らいで寺の門前に安置された。

伊達家の墓「御廟」の移転でポツンと取り残された庚申塚だったが、萬寿寺住職の庚申塚を大事に思う心から、寺の門前に安置された。

※庚申塚…道教と仏教の青面金剛(しょうめんこんごう)・帝釈天(たいしゃくてん)等の信仰と混合した庚申会(こうしんえ)を祭っている塚。

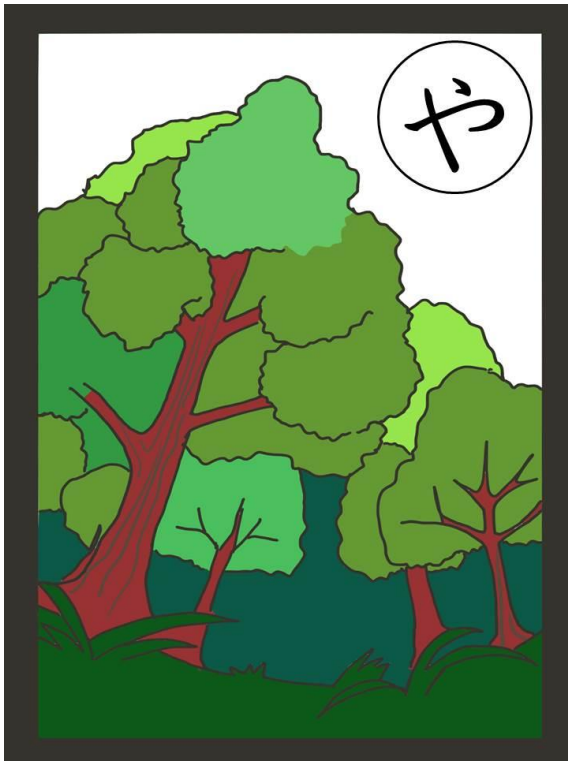


窯 跡

約1200年前奈良・平安時代の屋根瓦を焼いた窯跡(かまあと)。仙台市街北部, 通称「台原・小田原丘陵」に古代の窯跡群が30ヶ所程確認され, 総計で数百もの窯があったと考えられる。与兵衛沼窯跡蟹沢地区南地点で沼底から窖窯(あながま)13基と瓦製作工房1軒が発見された。

国府多賀城・陸奥国分寺・木下薬師堂建立時の屋根瓦を焼いた窯跡が, 今も土中や与兵衛沼の沼底に眠っている様子を詠んだ。

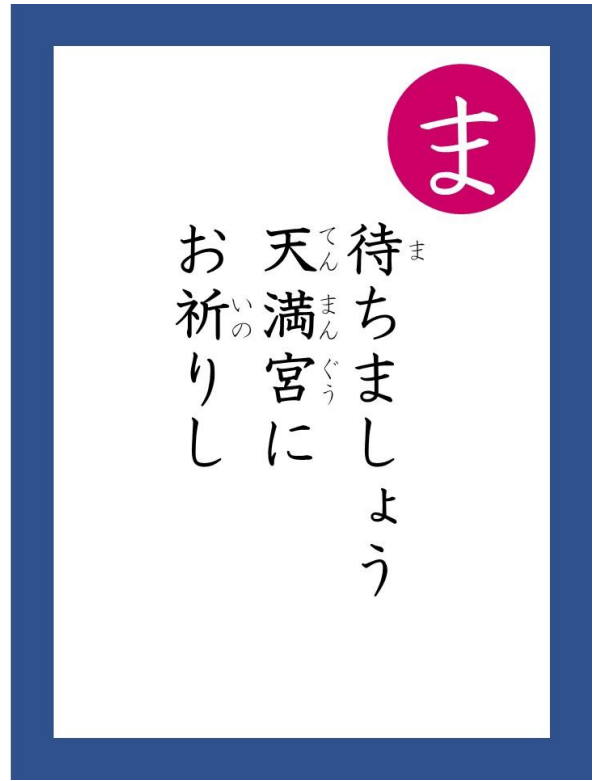
※ 窖窯(あながま)…傾斜地の地面を掘り抜いて構築した窯



要 害 館 跡

寛文10年(1645年)塩釜～蒲生～鶴巻～苦竹と年貢米を運ぶ水運の掘削工事監督を勤めた佐々木伊兵衛の屋敷跡。この工事完成で仙台城への米の輸送が年間4万石と増え、藩経済に大いに貢献した。現在跡地は田子要塞西公園として整地されている。

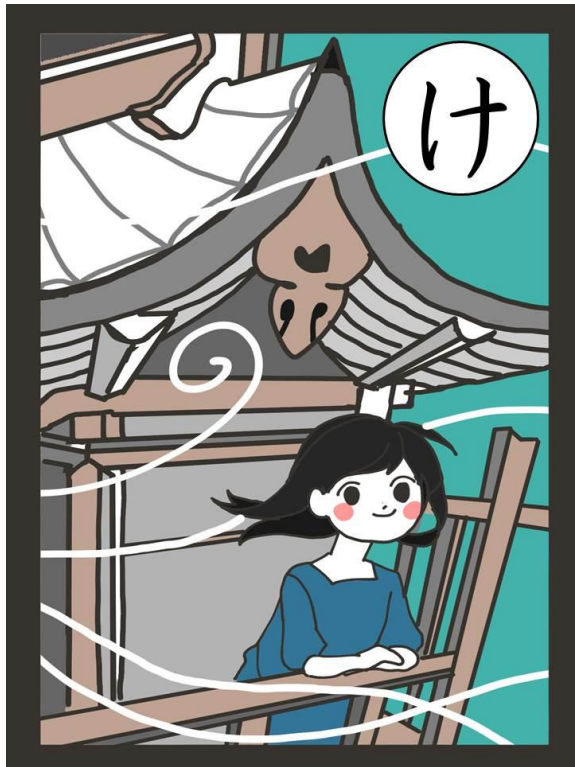
今では住宅が立ち並ぶ田子地区。1世代前まではまだまだ見晴らしがよく、古くからの住居を囲む林が点在する姿が見えたようだ。



榴岡天満宮

寛文7年(1667)伊達綱宗公が造営し菅原道真公の真筆(直筆の書)を奉納, 今も学問の神様として愛される。元禄2年5月松尾芭蕉が「ここ玉手よこ野つつじが岡はあせび咲くころ也。ここに天神の御社など拝て其日はくれぬ」(奥の細道)の文を遺す。

毎年シーズンになると拝殿の前で手を合わせたり, 絵馬を書いたりする受験生たちの姿を家族が心配そうに, しかし温かく見守っている。



高砂神社

万治2年(1659)2代藩主忠宗公の命で舟入堀を開削。工事の難行を憂い神に祈願し成就し、その威徳に報い社殿を建立。その後藩主が巡視の折、播州高砂の浦と景勝がよく似ているため社名を高砂神社とした。昭和45年仙台港建設工事のため遷宮、さらに東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた。

縁のあった「播州＝兵庫県」とは地震の被災地という点でも共通点を持った。毎年兵庫県から高校生がこの地を訪れ、学びながら交流を深めている。

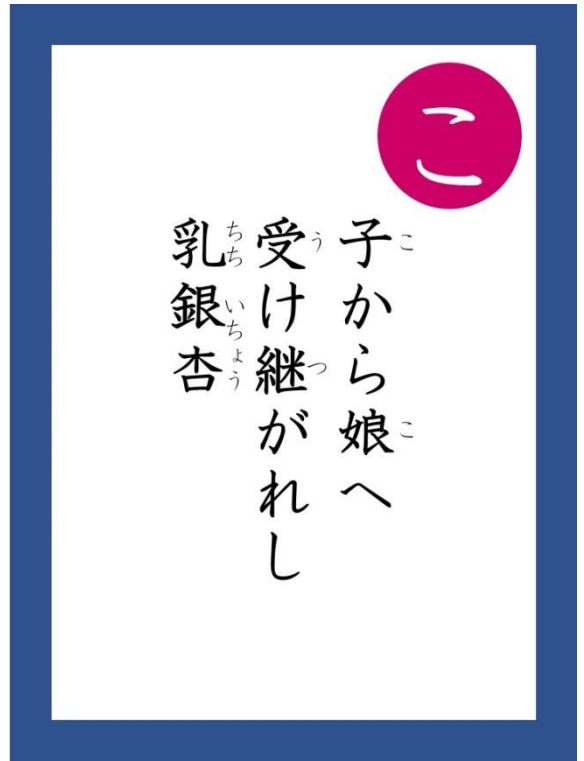
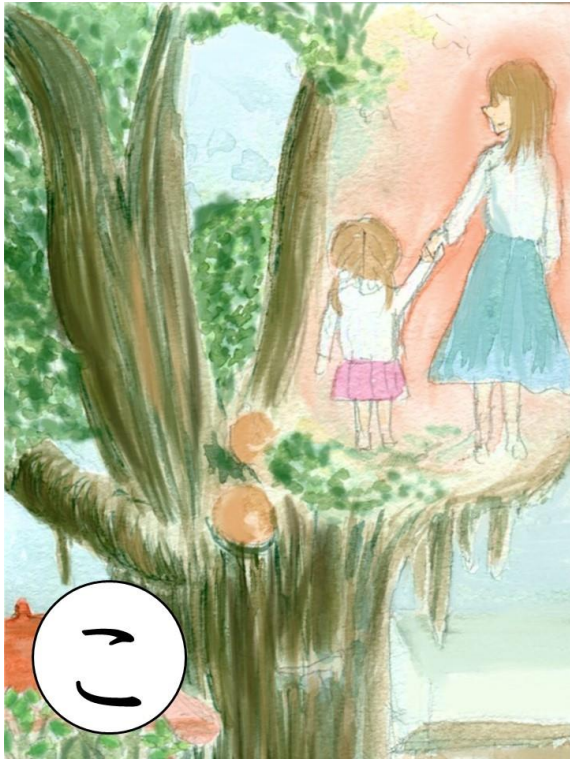


仙 台 港

1967年（昭和42年）に堀込型の港湾として着工。1971年（同46年）開港。以来，国際海上コンテナターミナルを目指し，数次に亘る整備を実施。港区内に公園・スポーツ施設を有し，後背地一帯の商業施設を含め，訪問客は年々増大している。

また形の整った大きな波が寄せるため，港の南側の砂浜が，有名なサーフスポットとなっている。

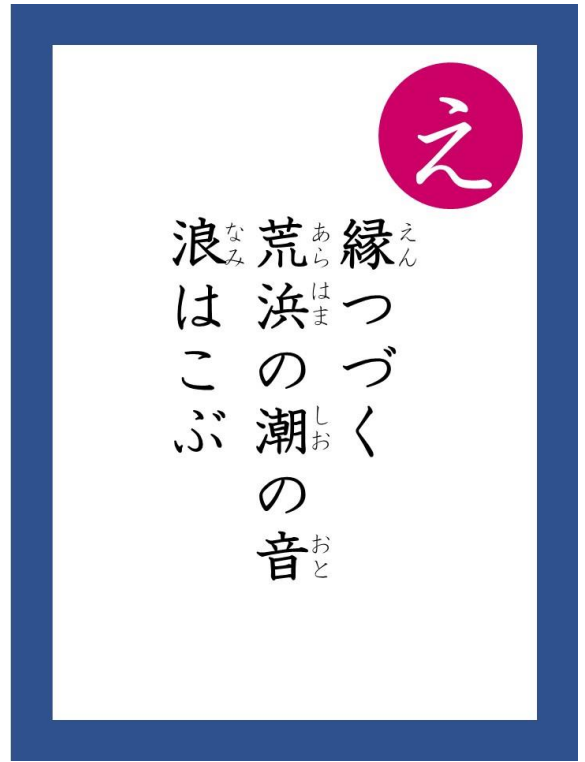
※仙台港の正式名称は「仙台塩釜港仙台港区」。仙台塩釜港は，仙台・塩釜・松島・石巻の4つの港区を持つ港である。



乳 銀 杏

仙台藩主4代綱村公の命で宮城野の生巢原(いけすはら)の野守役となった永野氏の屋敷地にある。幹根本周りが約8.5mあり、樹齡1200年と伝わる。大正15年10月国の天然記念物に指定された。

木の幹が垂れ下がった形をしており、乳のように見えることから、子どもを持つ多くの母たちが願いを込めてさすり続けてきたのだろう。



藤村広場

島崎藤村は明治29年(1896)東北学院教師となり、下宿・三浦屋の2階で若菜集の大部分を書いていた。これにちなんで、跡地を「藤村広場」とし「日本近代詩発祥の地の碑」(若菜集の表紙の蝶々が煉瓦に画かれているのは必見)の碑を建てた。またJR仙台駅東口から進む小道は「初恋通り」と呼ばれている。

藤村がこの地に下宿をしている時に仙台市荒浜をも訪れて、詩を作ったようだ。

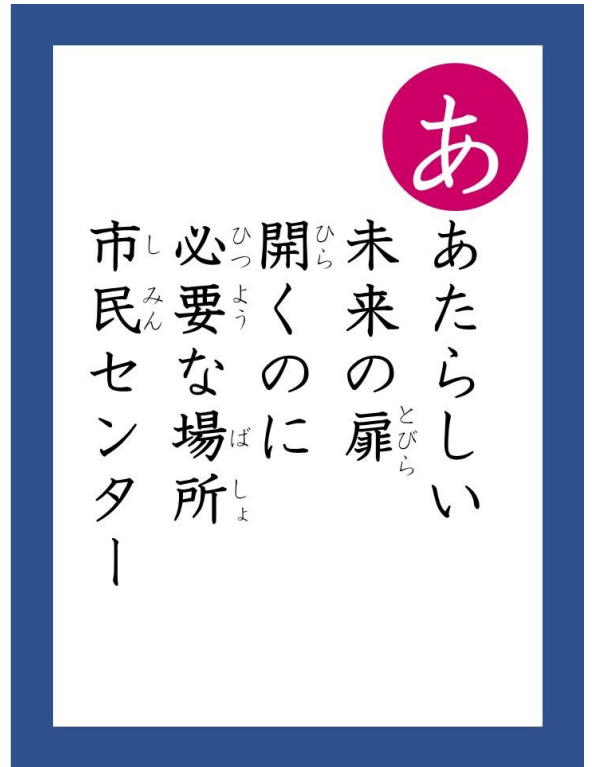


彼^ひ美^{うつく}釈^{しゃ}宮^{みや}天^{てん}
 岸^{がん}しく迦^か城^ぎ高^{たか}
 花^{ばな}く堂^{どう}野^のく
 咲^さに見^み
 く渡^{わた}
 す

釈迦堂

伊達綱村公が生母・三沢初子の冥福を祈り、榴ヶ岡に建てた持仏堂（元禄8年(1695)建立）。昭和48年(1973)宮城県立図書館建設に伴い、孝勝寺(初子が帰依し葬られた寺院)本堂脇に移された。

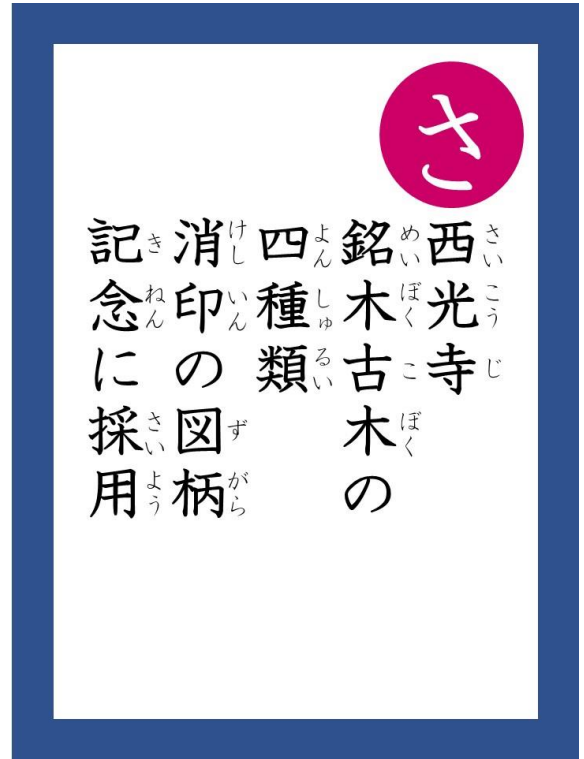
現在の場所よりも高い地である榴岡にあった時には周りに彼岸花が植えられ、また宮城野原一帯を見渡せたことだろう。今の場所からはそばにある五重塔が宮城野原を見下ろしている。



宮城野区中央市民センター， 文化センター

2012年8月に開館。地域の活性化を目指す複合施設。体育館・音楽室・調理室等を有する市民センター。「音楽用」と「演劇向け」のホールを備える文化センター，市民図書館も併設する。

2017年で開館5年目を迎え，原町地域に根差した存在になっている。宮城野区の市民参画の拠点として期待は高い。またこの「宮城野カルタ」も宮城野区中央市民センターの市民企画員を中心に創り上げた。



西光寺

臨濟宗妙心寺派。松島瑞巖寺末寺。正平元年(1346)知玉和尚開山。代々の住職が各地から集め植栽した古木が有名。昭和52年「銘木・古木88選」に「アラカシ」「イタヤカエデ」「ギンモクセイ」「ダンゴスギ」が選ばれている。平成2年2月2日福室郵便局オリジナル消印図柄に4種の古木が採用された。

真偽は不明だが、南朝の親王の墓と伝わるもの（一時期、平将門の墓とも）がこの地に遺されていることから、中世のこの地域や、東北と南北朝のかかわりを知る手掛かりになるかもしれない。



青麻神社

9世紀半ば，三光神(日月星)を奉祀(ほうし)した穂積保昌(ほづみやすまさ)が近隣に麻の栽培を広めたのが社名の始まりとか。境内に湧く「神水」は霊水として眼病や中風のご利益があるとされる。

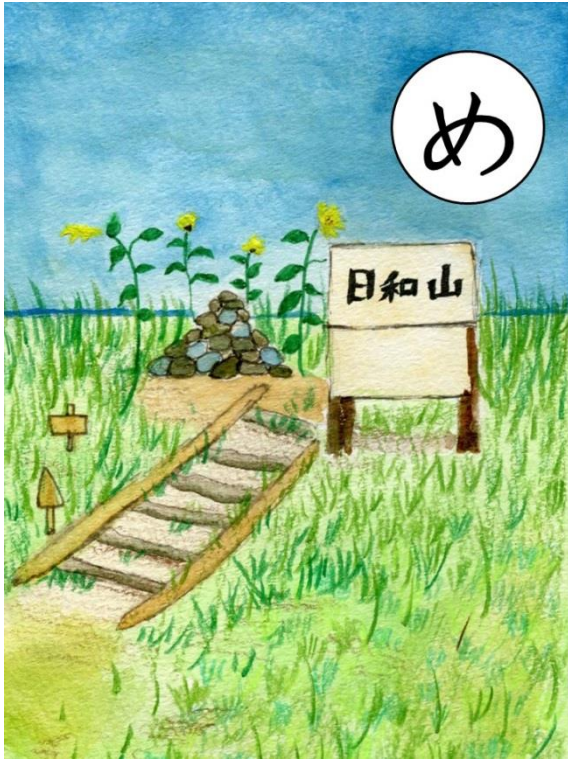
山中にあるため，交通の便が悪い場所ではあるが，近年「神水」を茶の湯や酒の醸造に用いるため，汲みに来る人もいるという。無形文化財の青麻神楽の伝承もある。



義経石・弁慶石

源義経主従が平泉の藤原秀衡公を頼って落ち延びる途中，高森山で休み，石投げの競争をした。弁慶の投げた石は七北田川を越え岩切中学校裏の畑に落ちたと伝わる。また義経の石は県道仙台松島線付近の畑に落ち，現在の岩切大橋南側の生協の敷地内にある。

石の傍らには説明板も添えられており，伝説を現在に伝えている。今後大規模開発が構想されている岩切地区であるが，このような歴史遺産との共存が望まれる。



日本一低い山 「日和山」

仙台市宮城野区蒲生にある日和山は、元々は物見台としての築山であり、100年以上の歴史を持つ。日本一の低さを競う他山の存在もあり、一時は『元祖』を名乗っていた(標高6.03m)。東日本大震災の津波の後、2014年に真の日本一低い山と再認定(標高3.0m)された。

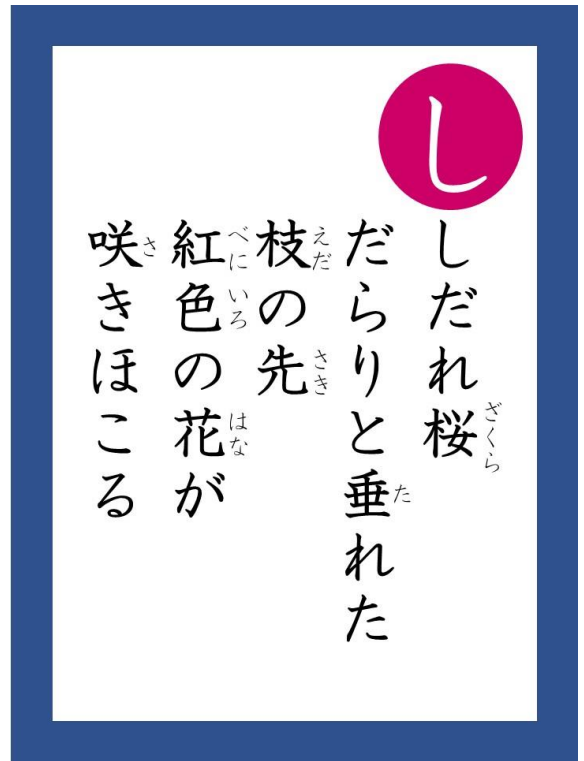
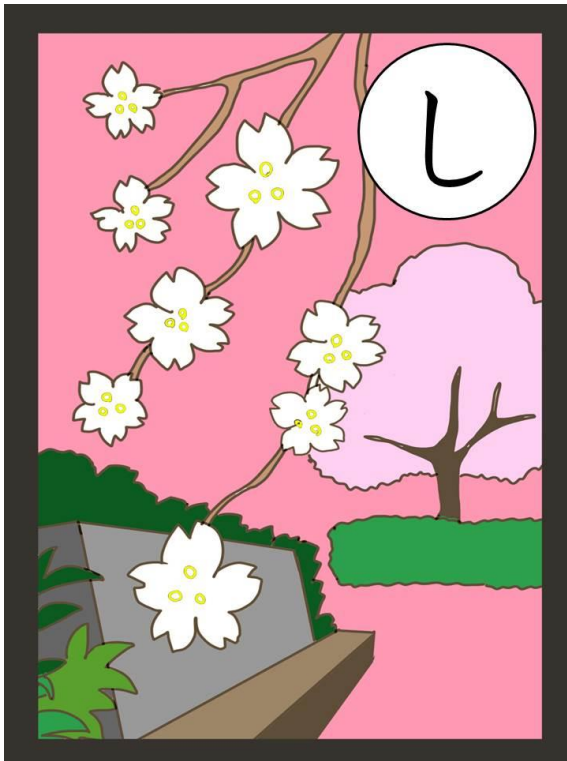
明治期に漁師たちの出漁の際の天候見極めのために築かれたと伝わる。例年日本一の高さを誇る富士山の山開きと同じ日に、日和山の「山開き」も行われ、多くの人で賑わう。



宮千代塚

昔、松島の寺の高僧・見仏上人に仕えた宮千代が、歌の修業のため上洛を企て松島を抜け出し、宮城野原に差しかけた。月明かりに一面の草原の露の玉が宝石のようにきらめいていて、「月は露つゆは草葉に宿かりて」と詠んだが、下の句が思いつかない。苦吟を重ねるうちに病にかかり亡くなった。その後亡霊が夜な夜な現れ上の句を口ずさむ。うわさを聞き見仏上人が「それこそそれよ宮城野の原」と下の句を手向けたところ、亡霊も出なくなったという。町名の由来となった碑だが、現在は住宅が立ち並ぶ公園の一角にある。

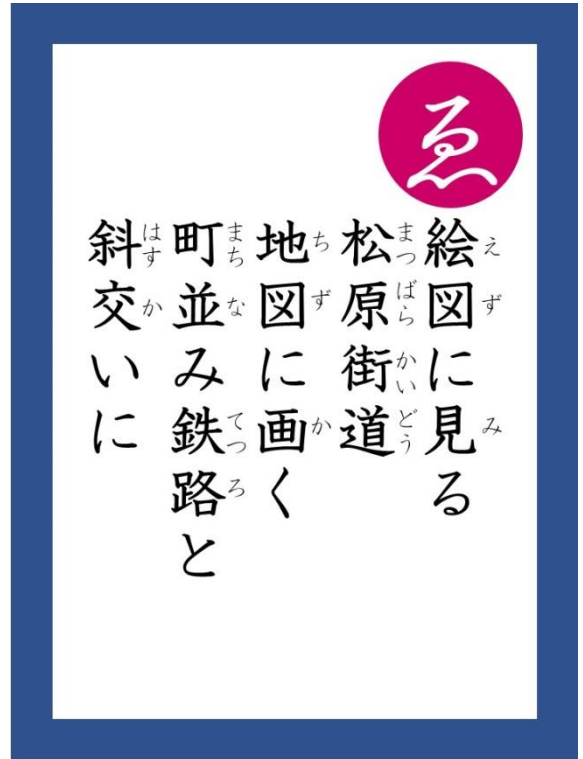
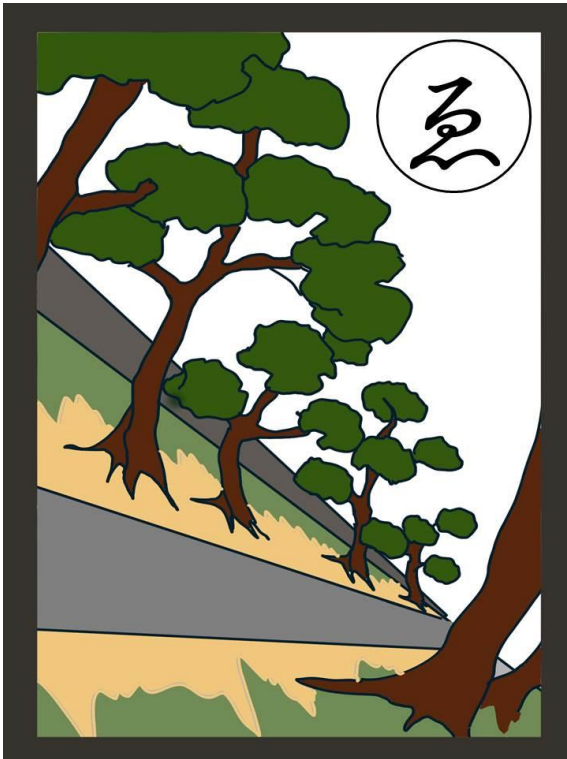
※「御城下名所旧跡案内記」には宮千代が「落馬して失ぬ」との表記もある。



榴 岡 (榴岡公園)

西公園に対し東公園と呼ばれた市内随一の桜の名所。桜の種類も豊富。伊達政宗公が築城の候補地としたとも伝えられる。公園内には4代藩主綱村公お手植えの桜や佐藤忠良氏のユネスコにちなんだ像もある。

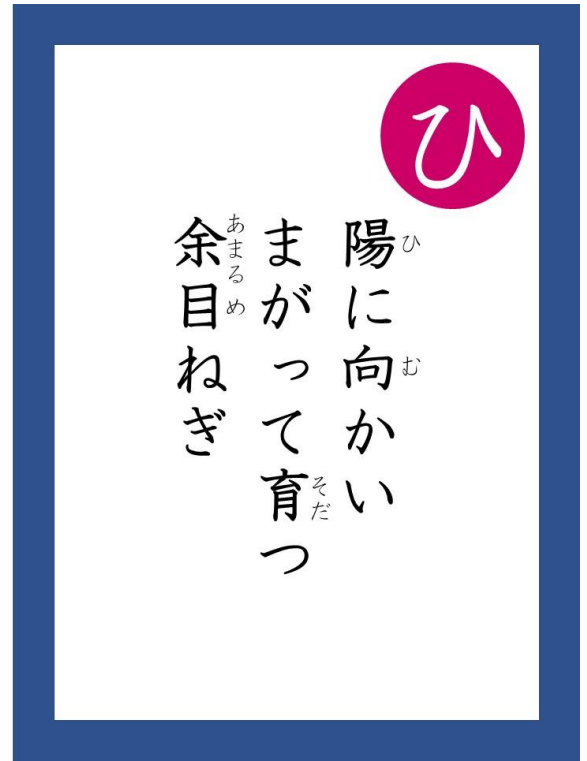
句中のシダレザクラは遊覧の地とされた江戸時代の頃よりあったとされる。今も春には多くの花見客で、秋には「区民まつり」で、共に賑わう市民の憩いの場所のひとつとなっている。



松原街道

原町から善応寺付近にかけて，400本あまりの松並木が有ったと伝えられる。松原街道と呼称されていたが，戦中の松根油の採取や，戦後の宅地化に伴う伐採があり，現在は街道の面影は全く無く，古写真や絵図に遺るのみである。

市民センターお手製のマップを手に付近を辿ってみると，かつての街道を現在の道路，鉄道が斜めに横切っていくことがよく分かる。松並木が今残されていれば「杜の都」の象徴のひとつになったかもしれない。



余目の曲がり葱

元来が低湿地のため通常の高い畝(うね)を造れず、真直ぐに育った葱を寝かせて植え替えるという「やとい」という作業の結果、曲って育つと言われる。明治末期からの工夫と伝統が、甘くも柔らかい名物を産出し続けている。

この作業で育ったねぎは陽を精いっぱい浴びて、柔らかく、甘いものになるという。

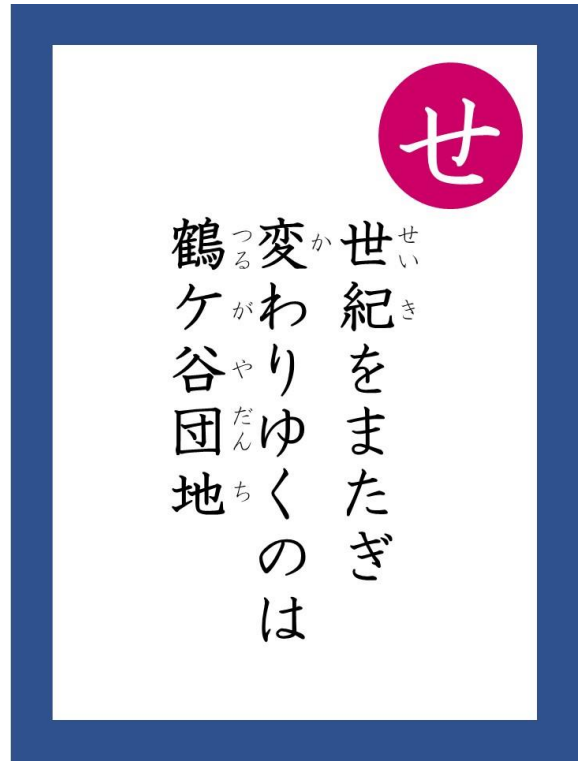


善応寺の蒙古の碑

善応寺境内には蒙古兵供養の碑がある。蒙古兵とは鎌倉時代後期の2度にわたる元寇の際、捕らえられた異国の兵のこと。この碑は江戸の享保年間に土中から掘り出され、付近の牧嶋観音堂に移されたが、昭和16年に蒙古連合自治政府の徳王が来仙した際、再度現在地に移された。

蒙古兵の首をはねた地という伝承が、善応寺や蒙古の碑がある「燕沢（つばめさわ）」地区の名前の由来に関わるという説もある。

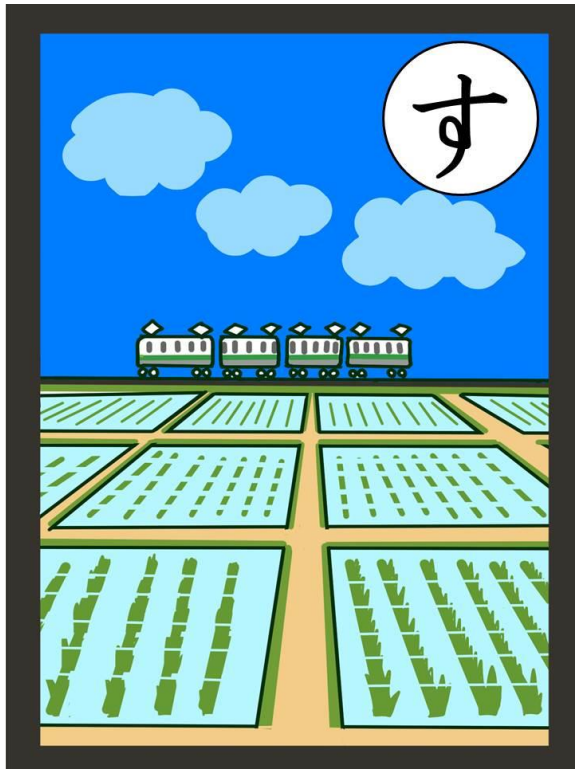
※善応寺…燕沢にある臨済宗妙心派に属する寺。4代藩主綱村公が1689年に建立。本尊は、慈覚大師作と言われる十一面観音像。



変わりゆく鶴ヶ谷団地

昭和半ばの造成団地が、平成の終わり近くには老朽化が取りざたされるようになった。中でも早期に着工され震災の影響が目立った1丁目・2丁目辺りは再構築が始まり、施設も新たに生まれ変わりつつある。

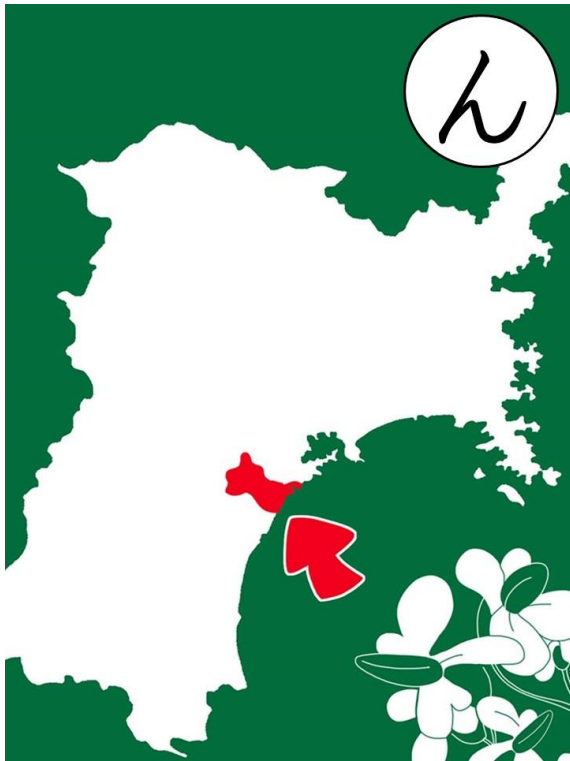
ショッピングセンターや市民センター、そして集合住宅が新たに建てられ、さらに福祉施設や公園がこれから設けられてゆく。夜、街灯に浮かぶ高層住宅のたたずまいは、これまでの鶴ヶ谷の印象を大きく変えている。



福 田 町

正保2年(1645)2代藩主忠宗公は福室の西，田子の南に海岸防備と新田開発のため直参足軽68人(三町足軽)を置き，この地を福田と命名。明治2年(1889)町村制施行により高砂村となり，福田町には役場，郵便局，学校，農業会，駐在所，銀行，駅などがあり，職人が集まり「福田町に来ると何でも用を足すことが出来た」と言われた。

今は国道45号線，JR仙石線が町を東西に横切っている。古い福田町の姿は福田大橋のたもと付近から南側のエリアでうかがえる。



宮 城 野 区

歌枕「宮城野」を区名とし、約58km²のコンパクトなエリアに「都心周辺地域」「丘陵住宅地域」「北部住宅・田園地域」「東部住宅・産業・田園地域」がある。東日本大震災では蒲生干潟，長い海岸線，貞山運河が津波による壊滅的な被害を受けた。

多様な表情を持つ宮城野区の中には，これからも遺したり，伝えたりしていったほしい貴重な「宝」がある。それらを子どもたちが，遊びながら学んでいくために作られたのがこの「宮城野カルタ」である。

四・カルタの遊び方

◎バラバラに置いた絵札（取札）を、家族や友だちで取り合い、その取得枚数を競うのが一般的な遊び方です。他に、小倉百人一首の競技に倣った遊び方があります。

○一般的な遊び方

- ①バラバラに配置した絵札を数人で囲み、読み手の読み始めを合図に札を取り合います。通常は個人戦です。
- ②チーム（団体）戦で合計枚数を競う遊び方もあり、その場合は、偶数人が相互に隣り合うように並びます。
- ③早い者勝ちではありませんが、複数人が同時の場合の措置は予め決めておきます。（「じゃんけん」「おあいこ」など。）
- ④取札が残り少なくなった場合に、カモフラージュの意味で、既に読み終えた札を再度読み上げる、などの工夫をする場合もあります。
- ⑤「お手付き」についても予め決めておきます。（その札を没にするか、再度読み直す方に回すか。また、取札を1枚没収するなどの罰則を設けるか、など。）
- ⑥得点は1枚1点ですが、特例を設ける遊び方もあります。

（イ）2点札を何枚か設ける。

（ロ）役札を何枚か設けて、同点の場合は役札の多さで決める。

五、競技としての遊び方（一例）

①相手と向かい合って対戦します。2・3人によるチーム戦の時も互いに向き合います。

②絵札を2分して、それぞれ自陣に向けて、2・3列整然と並べます。競技中は並べ替えません。

③読み手が読み終えるまで、両手は膝の上に置き、札を取る時は片手だけを使って、押えるか、はじき出します。

④「お手付き」の場合は取得札を相手に1枚渡します。

⑤残り2枚になったら、真ん中に寄せて横並びにします。チーム戦の場合は、代表者が勝負します。

⑥得点は、原則として1枚1点ですが、予め数枚の札に特例を設定できます。

（イ）2点札を設ける。

（ロ）奇数枚の役札を設ける。同点の際は役札の多い方を勝ちとする。

【平成28年】			【平成27年】		
11月12日	3月～9月	3月1～6日	11月14日	9月15日	実施日
<ul style="list-style-type: none"> ● 「宮城野区中央市民センターまつり」に参加。 * 「宮城野カルタ」講座の紹介・市民センターでの聴き取りから出た「カルタにしたい場所」候補のお披露目 * 宮城野区マップに「カルタにしたい場所」候補の場所を示し展示した * 宮城野区中央市民センターで職場体験事業（地元歩きに同行）を行った中学生が制作した読み札を展示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 聴き取りから出て来た「カルタにしたい場所」の説明資料の作成。 ● センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮城野区内の全市民センターを訪問し地元で詳しい方々に「宮城野カルタ」講座の紹介・カルタにしたい場所の聴き取りを行う。 *（実施場所）宮城野区中央市民センター・高砂市民センター・岩切市民センター・鶴ヶ谷市民センター・榴岡市民センター・東部市民センター・幸町市民センター・田子市民センター・福室市民センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「宮城野区中央市民センターまつり」にて講座の紹介・カルタにしたい場所の募集を行う。 ● 震災復興交流事業「あなたのオモイそれぞれのカタチ」にて講座の紹介・カルタにしたい場所の募集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮城野区中央市民センター：市民企画員講座「宮城野学」の新しい企画として「みやぎのかるたをつくろう」を提案する。 ● 「カルタ講座事前研修会」の実施 * 松木 達雄氏（七郷かるた編纂委員長）を講師に招き、「七郷かるた」作成・活用について話を聞く。 ● 「みやぎのかるた」制作計画書案をもとに今後の活動計画を練る。 	内容
【平成29年】			【平成28年】		
4月	1月～7月	12月15日	12月3日		実施日
<ul style="list-style-type: none"> ● 宮城野高校美術科にて「絵札づくり」の了解を得る↓打ち合わせスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「読み札づくり企画会」の詳細について検討を始める。 * コンセプト：「わかりやすく、楽しみながら、郷土愛に満ちた」カルタづくりを目指す * 参加者が「自分の作りたい場所」を選んで読み札を作成 * カルタの形式は「いろはかるた」とする * 参加者が「トランプかるた」を引いて頭文字を決定する * 企画会参加者同士が話せる和やかな雰囲気を目指す * 宮城野区全体からのリストアップ候補地を見ながら地域理解に役立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● カルタの読み札に合わせリストを五十五カ所に絞り込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 『市民企画員講座「宮城野カルタ」を作ろう！』名所・名物選び編』の選考会とこれまでの聴き取り結果で出て来た「カルタにしたい場所」候補を絞り込み「全候補リスト」作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 『市民企画員講座「宮城野カルタ」を作ろう！』名所・名物選び編』を開催する。 * 市民センターの聴き取り等での協力者や講座受講者が集まって更に新たな「カルタにしたい場所」を探し、候補として追加した * 「カルタにしたい場所」マップの展示 * 地元カルタ（数種）の展示 	内容



【平成29年】							
実施日	内容	実施日	内容	実施日			
11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「宮城野区中央市民センターまつり」に参加。 * 「宮城野カルタ」講座の紹介 * 出来上がった「読み札」を展示し即興で「読み札」作成を呼びかける ↓読み札（一枚）完成 	9～10月	<ul style="list-style-type: none"> ● カルタの解説書・構成などの形（レイアウト）検討を始める ● 中学生職場体験生が読み札づくりを体験する。 ↓読み札（八枚）完成 	9月2・16日	<ul style="list-style-type: none"> ● 『市民企画員講座「宮城野カルタ」を作ろう！～読み札づくり編～』を開催する。 * 大学生や社会人・八十代のベテラン地元学実践者など多彩なメンバーが参加した * 参考資料を準備して候補の理解に役立ててもらった。 ① 「カルタにしたい場所」全候補リスト（説明キーワード付き） ② “ ” 全候補の解説書 ③ “ ” 全候補のテーマ写真集 * 候補地をマップにして見やすく分りやすくした 	8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生職場体験生と大学生社教実習生が読み札づくりを体験する。 * 参考資料：「説明資料」「写真資料」 * 中学生は隣同士で話してイメージを膨らませ読み札を作った * 大学生の他県出身者は、初めて聞く場所を説明資料やスマホ検索で情報を集め、読み札を作っていた ↓読み札（八枚）完成 ● 「全候補リスト」に説明キーワードを追加し題材を理解しやすくした。
【平成30年】			【平成29年】				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「宮城野カルタ（初版）」完成 ● 「宮城野カルタ」を「原カフェ」にてお披露目。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「宮城野高校卒業展覧会」にてカルタ原画を展示。 ● 澤瀬きよこ氏を招き、絵札選び会を二月九・二十日に行って、絵札を選定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 読み札（四十八枚）完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● カルタの解説書用・史実の解説書（説明資料の縮小版）を内容検討。読み札の解釈文の検討。 ● 不足している読み札の作成者を確認↓製作依頼。 * 宮城野区長へ読み札作成を依頼した 	内容		

宮城野カルタが出来あがりました。

「現存する歴史的な地点（名称・場所）を後世に伝えること」を主眼に、三年ほどの取組みでしたが、なるべく多くの区民（市民）の参画を得たいとする意図の許に、学生・生徒から八十歳代までの幅広い年齢層の協力が得られて、完成にまでこぎ着けました。

読み札の多くは、対象こそ自分で選べるものの、読み出しは抽選で振り当てられ、一時間ほどで文章にするという、ほぼ即興での創作という過酷なものでした。また取り札は、宮城野高校美術科からのご協力が得られ、生徒さんの労作が花を添えて下さった恰好です。

企画時の思惑や目論見とは合致するものでは無かったにせよ、完成を見た現時点でいえる事が二つ有ります。その一つは、多くの参加者によって即興的に作り上げる手法も、かなり有効であったと思えること。できるだけ作っていたいただいた作品の「味」を残し、多くの方が参画して作り上げたカルタということを表すため、手を加えませんでした。だから句の長さ、調子、デザインなど一枚一枚に特徴があります。ただし添作や加筆・修正の余地があれば、より良質の作品に仕上がるのが期待されるでしょう。

もう一つは、のちの作業を容易にするためにも、事前の候補選定の作業に多くの時間を割く必要があったと思えること。だからこそ、読み札の文意の説明と共に、この講座の原点である「宮城野学」に寄与できる解説書を残し得たと思います。

最後に、日頃より市民センターを利用され、講座や催事に参画されている皆様のご協力に、企画員一同より感謝申し上げます。多くの方が制作に関わっていただいたカルタですので、より多くの方に楽しみ・学んでいただくものになれば幸いです。

